



PRESS RELEASE

2014 年 7 月 17 日

「第 3 回国連防災世界会議」に向けた、日本の市民社会の取り組み 7/25 JCC2015 中間報告会を開催します！

2015 年 3 月、仙台市で「第 3 回国連防災世界会議」が開催されます。「2015 防災世界会議日本 CSO ネットワーク (以下、JCC2015)」は、この会議を通じて、東日本大震災での教訓を世界の防災に役立てようと、2014 年 1 月の発足以来、日本の市民社会の声を国際舞台に届ける活動を続けてきました。7 月 25 日、この半年間の活動を振り返り、来年 3 月の会議本番に向けた取り組みを考える中間報告会を開催する運びとなりました。

防災世界会議は、1994 年の横浜、2005 年の兵庫・神戸、そして今回の東北・仙台と、3 回すべてを日本がホスト国を務める国連会議で、国連加盟 193 カ国の代表団らを含め延べ 4 万人が参加する見込みです。第 2 回会議では、「兵庫行動枠組 (HFA)」という国際的な防災の指針が採択され、各国の防災力向上に役立ってきました。また、防災・減災には、行政や自治体による取り組みだけでなく、市民・民間の活動が重要との認識が広がり、2007 年には約 90 カ国の NGO らが加盟する GNDR (地球市民社会の防災ネットワーク) が立ち上がり、防災世界会議の主催事務局である UNISDR (国連国際防災戦略 / 本部ジュネーブ) と様々な連携・協働が始まりました。

しかしながら、これらの一連の国際的な動きには、ホスト国である日本の NGO/NPO らが積極的に参画していませんでした。その反省点に立ち、JCC2015 では、国内 85 の参加団体とともに「第 3 回国連防災世界会議」で策定される「兵庫行動枠組 2」への提言を行い、準備会合である防災グローバル・プラットフォーム会合 (2013 年 5 月、ジュネーブ)、第 6 回アジア防災閣僚級会議 (2014 年 6 月、バンコク)、第 1 回 Prep Com (2014 年 7 月、ジュネーブ) に参加し、日本の市民社会からのメッセージを発信してきました。

中間報告会では、これら一連の成果を報告するとともに、来年 3 月の会議への参加方法などを紹介します。気候変動の影響や貧困による災害被害の増幅など、防災分野の主流化については国際的に大きな議論が行われています。報道関係者の皆様も、取材・報道目的に限らず、ぜひ足を運んでいただければと思います。

■ JCC2015 中間報告会 概要

- 【 日時 】 2014 年 7 月 25 日 (金) 13:30-15:30
- 【 場所 】 早稲田奉仕園会館 BF リバティホール (東京都新宿区西早稲田 2-3-18)
- 【 定員 】 70 名 (要事前予約)
- 【 登壇者 】 マヌー・グプタ氏 (NGO アジア防災・災害救援ネットワーク ADRRN 代表)、大橋正明 (JCC2015 代表 / 国際協力 NGO センター理事長)、堀内葵 (JCC2015 事務局長 / 国際協力 NGO センター)、小美野剛 (CWS Japan / JCC2015)、合田茂広 (ピースポート災害ボランティアセンター / JCC2015) ほか
- 【 予約 】 「団体名」「参加人数」「お名前」を記載の上、下記アドレスにメールでご予約ください。

【 返信先 : jcc_event@jcc2015.net 】

※8 月 4 日には福島で、8 月 11 日には宮城、8 月中 (調整中) には岩手でも同様の勉強会を開催予定です。東北会場へのご参加を検討される場合には、下記までご連絡ください。

● このリリースに関するお問い合わせは、

「2015 防災世界会議日本 CSO ネットワーク (JCC2015)」事務局 (国際協力 NGO センター内)
TEL. 03-5292-2911 MAIL. jcc_event@jcc2015.net